

第2章 北野遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

北野遺跡は、藤間江川に面した標高 17～18m の台地縁辺にあり、開析した小支谷を囲うように立地する南北 250m、東西 650m 以上の遺跡である。上福岡駅まで 600m に位置する利便性のため、昭和 30 年代から宅地開発され、ほとんど空き地は残っていない。

周辺の遺跡は、1km 上流に縄文集落の西遺跡、下流に旧石器時代から縄文、古代、中近世にわたる複合遺跡の川崎遺跡、川崎横穴墓群がある。

1965 年の分布調査、1970 年代後半の宅地開発で縄文時代早～中期の土器片が採集され、1980 年以來 24 ケ所で試掘調査が行われている。縄文時代中期と平安時代の住居跡各 1 軒、中世以前とみられる溝等を検出、縄文時代中期深鉢土器の顔面把手等も採集されている。



第3図 北野遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

II 北野遺跡第 19 地点

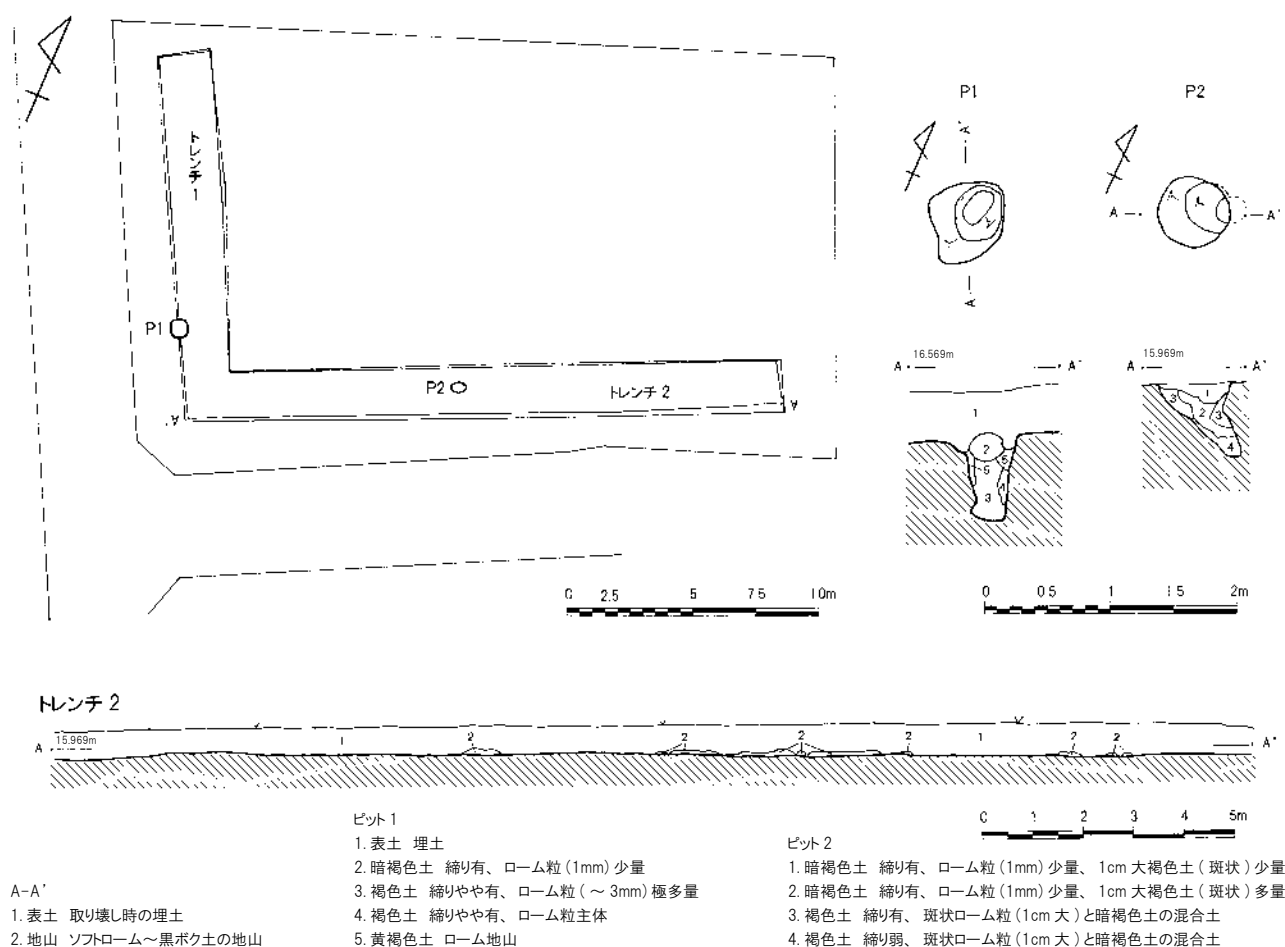
(1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が 2010 年 11 月 17 日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は 2010 年 12 月 1 日～2 日に行った。幅約 2m のトレンチを L 字形に 1 本設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行い、ピット 2 基を検出した。遺構確認面までの深さは約 60cm である。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

【ピット】ピットは 2 基検出した。いずれも覆土の様子から縄文時代と思われるが、出土遺物はない。P 1 は平面楕円形、確認面径 75 × 60cm、底径 30 × 15cm、確認面からの深さ 71cm である。P 2 は斜向ピットで深さ 60cm まで掘ったが、完掘はしていない。確認面径 60 × 60cm である。



第 4 図 北野遺跡第 19 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)、ピット (1/60)



北野遺跡第 19 地点トレンチ 1



北野遺跡第 19 地点トレンチ 2



川崎遺跡第 32 地点全景



川崎遺跡第 32 地点 H65 号住居跡全景



川崎遺跡第 32 地点 H65 号住居跡階段状遺構



川崎遺跡第 32 地点 H65 号住居跡竈



川崎遺跡第 32 地点 H65 号住居跡遺物出土状況



川崎遺跡第 32 地点 H65 号住居跡掘方